

RIVER

One and Only Creator

第63期 中間株主通信

2007年4月1日～2007年9月30日

2007 Interim Business Report

リバーエレクトック株式会社

株主の皆様におかれましては、
 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。



当中間期は、グループの強みである超小型水晶製品の受注が好調だったことから、連結売上高5,000百万円、連結経常利益716百万円と前年同期を上回る結果となりました。

現在、当社グループは、「顧客の満足と信頼の獲得」、「独創的発想による価値の創造」、「事業改革による持続的な成長」を基本戦略の柱とする3ヵ年中期経営計画に取り組んでおり、当期がその最終年度になります。今後も基本戦略に基づく施策を確実に実行し、強固な経営基盤のもと、成長を続けるリバーグループを目指してまいります。

当期の中間配当金につきましては、諸般の情勢を考慮して、1株につき7.5円とさせていただきます。これまで制度はありましたが、今回が初めての実施となります。また、期末の配当金につきましては、1株につき7.5円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

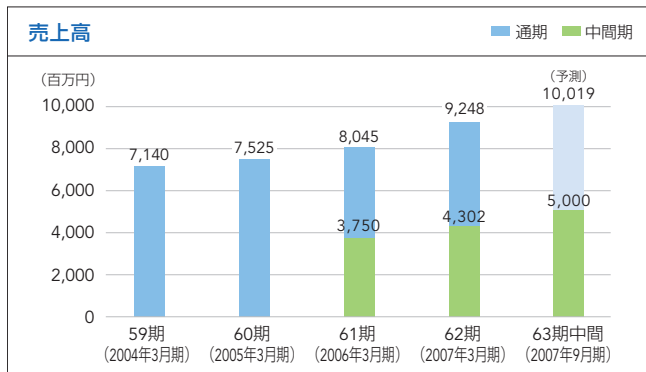
2007年12月

代表取締役社長 若尾 富士男

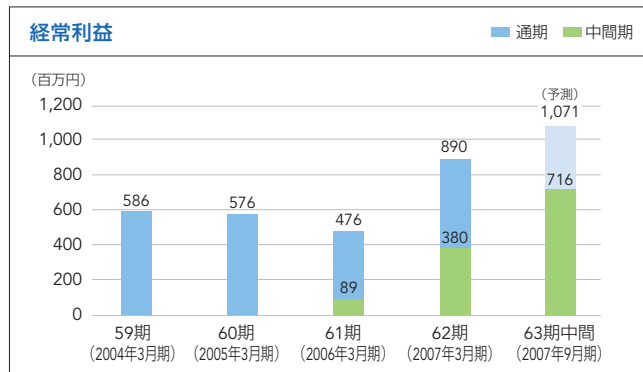
CONTENTS

- | | | | |
|--------------|------------|-----------|---------------|
| 1 株主の皆様へ | 2 財務ハイライト | 3 4 営業の概況 | 5 クローズアップ |
| 6 株主様アンケート特集 | 7 8 連結財務諸表 | 9 個別財務諸表 | 10 会社概要・株式の状況 |

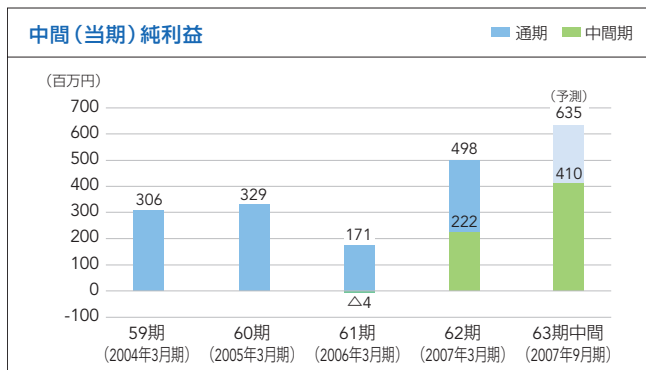
売上高



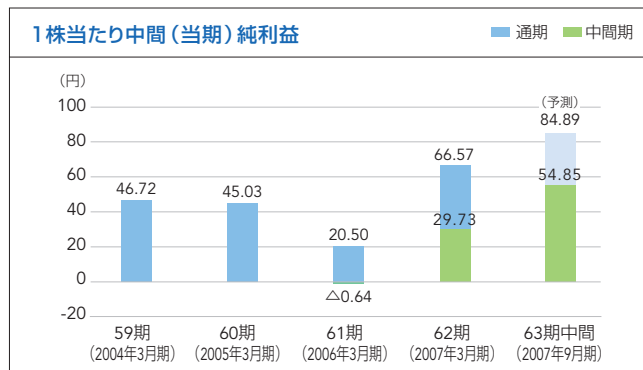
経常利益



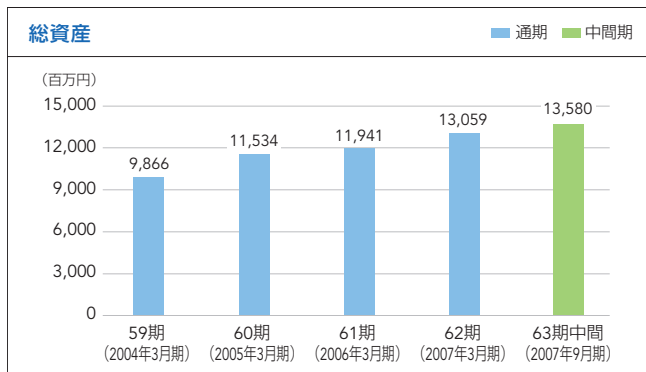
中間(当期)純利益



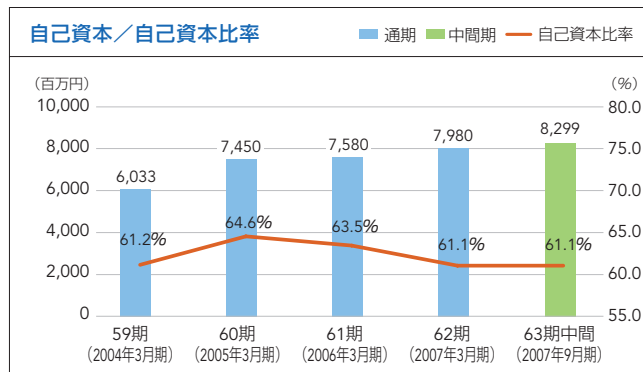
1株当たり中間(当期)純利益



総資産



自己資本/自己資本比率



当中間期業績の概要（連結）

当中間期は、当社グループの成長の原動力である小型化技術を活かした超小型水晶振動子FCX-06（長さ2.0mm×幅1.6mm）を中心とした小型製品の無線モジュールおよび携帯電話向けなどの受注が好調に推移いたしました。また、全社一丸となって原価低減や販売価格の維持に努めた結果、当中間期の

業績は、連結売上高5,000百万円（前年同期比16.2%増）、連結営業利益711百万円（同88.8%増）、連結経常利益716百万円（同88.1%増）、連結中間純利益410百万円（同84.4%増）となりました。

通期の見通し

通期の見通しにつきましては、わが国経済は引き続き企業収益や稼働率が高水準であることから設備投資も底堅く、緩やかな成長が継続するものと予測しておりますが、資源価格の高騰、サブプライムローン問題の波及による金融市場の動揺や米国景気の減速懸念から先行きの不透明感が増す可能性があります。

このような環境下のなか、水晶製品事業は、新製品である超小型製品FCX-07（長さ1.6mm×幅1.2mm）を筆頭に超小型製品の需要拡大を図るとともに高品質な製品を安定供給するべく、マーケティング力および生産体制を強化して企業価値の向上を推進してまいります。用途別には、引き続き無線モジュール・携帯電話・パソコンおよび周辺機器・カーエレクトロニクス向けに重点的に販売展開を図り、加えて製品小型化の要求が増えつつある中国および韓国を中心とした海外市場でのシェアを伸ばすことで業績の向上を目指してまいります。

抵抗器事業は、価格競争などの厳しい事業環境が予想され、連結売上高は前期を下回ることを予想しております。

インダクタ事業はAV機器関連の受注増が見込まれ、連結売上高は前期に対し、微増することを予想しております。

2008年3月期業績予想

売上高	10,019	百万円
営業利益	1,077	百万円
経常利益	1,071	百万円
当期純利益	635	百万円

将来に関する記述についての注意事項

本資料に記載されている業績予想および客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現在入手している情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。当社グループの事業を取り巻く環境の変化等により、実際の業績等は異なる可能性があることにご留意ください。

セグメント別営業の概要

水晶製品事業におきましては、無線モジュール・携帯電話・パソコンおよび周辺機器・カーエレクトロニクスなどの受注が好調でありました。当社の強みである超小型水晶製品FCX-06の受注が好調であり、前年同期の売上高を大きく上回っております。

無線モジュール向けは、Bluetooth等の近距離無線関連が受注を伸ばし、前年同期の売上高を大きく上回りました。携帯電話向けは、ナンバーポータビリティによる機種買換などの要因により受注を伸ばし、前年同期の売上高を上回りました。パソコンおよび周辺機器向けは、パソコン本体用・周辺機器用ともに受注を伸ばし、前年同期の売上高を上回りました。カーエレクトロニクス向けは、キーレスエントリー・カーナビゲーション関連を中心に安定的に推移し、前年同期の売上高を上回りました。

以上の結果、当事業の連結売上高は4,672百万円(前年同期比17.9%増)となりました。

抵抗器事業におきましては、海外市場のみで事業展開しており、主としてAV機器や電源などに使われております。

当事業の連結売上高は、販売価格は横ばいながらも受注減少により、177百万円(前年同期比6.4%減)となりました。

インダクタ事業におきましては、主としてAV機器や照明機器などに使われております。

当事業の連結売上高は、製品構成の変化により平均販売価格は上昇したものの、受注の伸び悩みにより、98百万円(前年同期比1.5%減)となりました。

その他の事業におきましては、開閉器などの販売を展開しております。

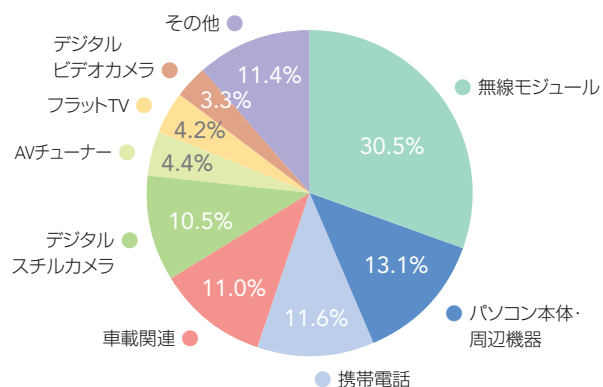
当事業の連結売上高は、51百万円(前年同期比4.7%増)となりました。

セグメント別売上高・営業利益(連結)

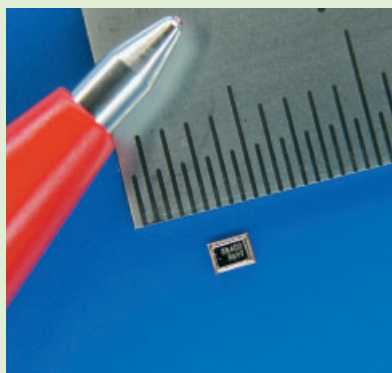
(単位:百万円)

	売上高	営業利益
水晶製品	4,672	1,223
抵抗器	177	23
インダクタ	98	11
その他	51	△23
全社又は消去	—	△523
合計	5,000	711

水晶製品用途別売上高構成(連結)



NEW PRODUCT

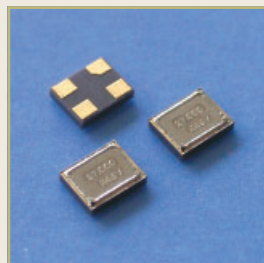


無限の可能性を秘めた世界最小サイズ

FCX-07

世界最小SMDタイプ、超小型・超薄型水晶振動子

小型水晶デバイス開発の先進企業である当社は、圧倒的な小型化を実現した世界最小の水晶振動子「FCX-07」を出荷しました。FCXシリーズの初代モデルから1/100の小型化に成功したFCX-06に対して、さらに約半分の容積率という超小型化のFCX-07の開発に成功。携帯電話、車、パソコン、家電オーディオ、そして医療機器など、高性能に進化するエレクトロニクス製品の基幹部で作動する水晶デバイスは、ユビキタス社会の実現に向けてかかすことのできない役割を担っています。



FCX-06

cubic volume

1.60mm²

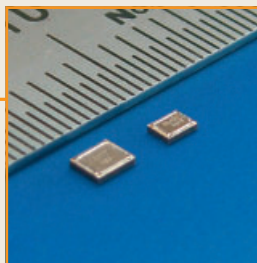
FCX-07

cubic volume

0.86mm²

Volume Capacity

-46%



FCX-07

- 小型設計 (1.6mm×1.2mm×0.45mm Max)
 - セラミックと金属蓋で高信頼性確保
 - 無鉛はんだ用リフローソルダリングが可能
 - 鉛フリー対応
 - RoHS指令対応
- (写真左がFCX-06、右がFCX-07)

Column

水晶デバイスがエレクトロニクス製品を動かす?!

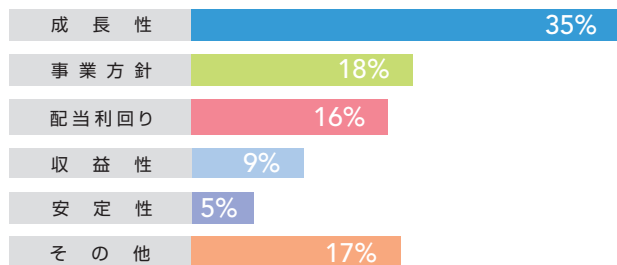
ユビキタス社会にかかせない電子機器の進歩。たとえば携帯電話は、数千チャンネルの周波数を用いて基地局と通信しています。この周波数が狂うと、通話ができなくなるという事態もおこります。またパソコンやオーディオのように幾つもの周辺機器から構成されている製品は、それぞれの機器のタイミングを合わせて動かすことでロケーションフリーにおいても正しく作動することができるのです。タイミングデバイスである当社水晶振動子・水晶発振器は、**規則正しい基準信号を作り出し、安定した周波数を維持する**オーケストラの中心人物、指揮者のような働きをしているのです。



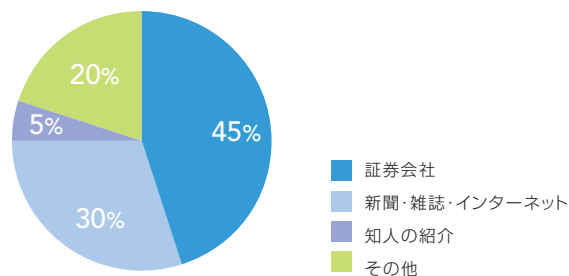
株主様アンケート結果のご報告

毎回多くの株主の皆様にご協力いただきながら行ってまいりました株主様アンケートですが、今回は147名の株主の皆様からご回答を頂戴しました。ご協力いただきました株主の皆様には深く感謝申し上げます。

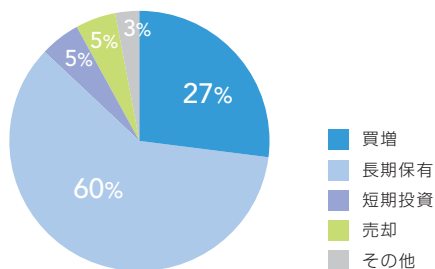
Q 当社株式を購入された理由は何ですか。(複数回答)



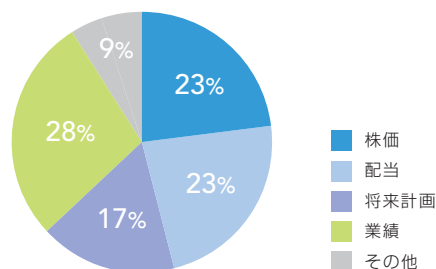
Q 当社を何でお知りになりましたか。(単一回答)



Q 今後、当社株式に関してどのような方針をお持ちですか。



Q 左記方針を決定する判断材料は何ですか。(複数回答)



株主様の声

- 今後とも世界トップレベルの技術開発力を維持してください。
- 成長分野に向けた攻めの経営で、シェアUPに努めてもらいたい。
- 東証への鞍替えを目指して頑張ってください。
- 企業規模が小さいように感じる。成長性が高いので事業の拡がりに期待する。
- 社会に役立つ製品づくりに期待します。
- 県内優良企業としてさらなる高付加価値製品の開発を目指してください。
- 認知度を上げるためにさらなる企業努力をお願いします。

Consolidated Financial Statements

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	前中間期 (2006年9月30日現在)	当中間期 (2007年9月30日現在)	前期 (2007年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	6,182,557	6,176,961	6,514,221
現金及び預金	2,002,831	1,788,962	2,517,374
受取手形及び売掛金	3,061,231	3,141,636	2,867,796
たな卸資産	774,927	849,217	810,230
繰延税金資産	216,285	267,443	251,124
その他	130,384	133,948	71,393
貸倒引当金	△3,103	△4,248	△3,698
固定資産	6,451,360	7,403,453	6,544,865
有形固定資産	5,999,531	6,918,785	6,053,308
建物及び構築物	1,356,708	1,489,610	1,469,467
機械装置及び運搬具	3,626,944	3,789,585	3,587,406
工具、器具及び備品	126,148	212,520	183,573
土地	580,215	544,034	544,034
建設仮勘定	309,513	883,035	268,826
無形固定資産	26,453	38,085	38,977
投資その他の資産	425,376	446,582	452,579
繰延資産	2,620	—	—
新株発行費	2,620	—	—
資産合計	12,636,538	13,580,414	13,059,087

(単位:千円)

科目	前中間期 (2006年9月30日現在)	当中間期 (2007年9月30日現在)	前期 (2007年3月31日現在)
負債の部			
流動負債	3,595,501	4,147,495	3,824,131
支払手形及び買掛金	1,073,628	1,201,184	1,112,871
1年以内償還予定社債	20,000	20,000	20,000
短期借入金	766,212	463,496	700,228
1年以内返済予定の長期借入金	460,119	289,951	358,119
未払法人税等	228,057	322,306	366,275
その他	1,047,483	1,850,557	1,266,636
固定負債	1,073,972	777,343	917,677
社債	20,000	—	10,000
長期借入金	842,647	552,696	688,758
繰延税金負債	27,973	8,473	15,905
退職給付引当金	70,742	90,813	76,664
役員退職慰労引当金	112,610	125,360	126,350
負債合計	4,669,474	4,924,838	4,741,808
純資産の部			
株主資本	7,772,910	8,347,325	8,048,812
資本金	1,070,520	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810	957,810
利益剰余金	5,745,456	6,319,955	6,021,442
自己株式	△875	△959	△959
評価・換算差額等	△121,205	△48,243	△68,189
その他有価証券評価差額金	40,095	38,942	54,907
為替換算調整勘定	△161,300	△87,186	△123,097
少数株主持分	315,359	356,493	336,655
純資産合計	7,967,064	8,655,575	8,317,278
負債純資産合計	12,636,538	13,580,414	13,059,087

POINT

建設仮勘定 & 設備関係支払手形

建設仮勘定および設備関係支払手形がそれぞれ573百万円、397百万円増加しました。これは生産能力増強のための設備投資によるものです。

POINT

営業利益

収益性の高い超小型水晶デバイスの受注が好調であったことに加え、販売費及び一般管理費の伸びも売上高の伸びに比べ低く抑えられたため営業利益率は大幅に上昇しました。

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
売上高	4,302,081	5,000,349	9,248,214
売上原価	3,107,474	3,395,500	6,625,181
売上総利益	1,194,606	1,604,848	2,623,032
販売費及び一般管理費	817,883	893,669	1,760,778
営業利益	376,723	711,178	862,253
営業外収益	25,596	33,000	85,396
営業外費用	21,610	28,159	57,255
経常利益	380,709	716,019	890,395
特別利益	31,067	9	34,032
特別損失	42,478	26,784	110,679
税金等調整前中間(当期)純利益	369,298	689,244	813,748
法人税、住民税及び事業税	220,183	311,346	449,534
法人税等調整額	△75,925	△35,584	△137,632
少数株主利益	2,275	2,595	3,095
中間(当期)純利益	222,764	410,886	498,750

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	464,330	625,969	1,864,955
投資活動による キャッシュ・フロー	△354,663	△785,847	△1,433,073
財務活動による キャッシュ・フロー	113,299	△562,321	△218,792
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△1,582	19,560	26,683
現金及び現金同等物の 増減額(減少:△)	221,384	△702,639	239,772
現金及び現金同等物の 期首残高	1,142,356	1,382,129	1,142,356
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	1,363,740	679,489	1,382,129

POINT

フリーキャッシュ・フロー(営業CF+投資CF)

フリーキャッシュ・フローは、前年同期に比べ269百万円減少しました。これは将来の持続的な成長のために大規模な設備投資を行っているためであります。期初の計画では期末までに水晶製品月産2,500万個体制を目指しておりましたが、現在計画を前倒ししており年内中に達成する見込みであります。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期(2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位:千円)

科 目	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日 残高	1,070,520	957,810	6,021,442	△959	8,048,812	54,907	△123,097	△68,189	336,655	8,317,278
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△112,373		△112,373					△112,373
中間純利益			410,886		410,886					410,886
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△15,964	35,911	19,946	19,837	39,784
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	298,512	—	298,512	△15,964	35,911	19,946	19,837	338,297
2007年9月30日 残高	1,070,520	957,810	6,319,955	△959	8,347,325	38,942	△87,186	△48,243	356,493	8,655,575

中間個別貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(2006年9月30日現在)	(2007年9月30日現在)	(2007年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	4,038,385	3,871,488	4,350,697
固定資産	5,098,914	5,842,416	5,059,105
有形固定資産	4,234,298	4,951,430	4,153,194
無形固定資産	21,456	33,158	34,015
投資その他の資産	843,160	857,826	871,895
繰延資産	2,620	—	—
資産合計	9,139,921	9,713,905	9,409,803
負債の部			
流動負債	1,504,240	1,871,461	1,625,054
固定負債	945,038	662,553	791,994
負債合計	2,449,278	2,534,015	2,417,049
純資産の部			
株主資本	6,650,547	7,140,946	6,937,846
資本金	1,070,520	1,070,520	1,070,520
資本剰余金	957,810	957,810	957,810
利益剰余金	4,623,093	5,113,576	4,910,476
自己株式	△875	△959	△959
評価・換算差額等	40,095	38,942	54,907
純資産合計	6,690,642	7,179,889	6,992,754
負債純資産合計	9,139,921	9,713,905	9,409,803

中間個別損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
売上高	4,061,196	4,694,895	8,403,677
売上原価	3,160,230	3,420,670	6,268,954
売上総利益	900,965	1,274,224	2,134,722
販売費及び一般管理費	662,230	712,171	1,411,502
営業利益	238,735	562,053	723,220
営業外収益	11,430	12,995	91,897
営業外費用	20,669	21,001	43,967
経常利益	229,496	554,048	771,149
特別利益	11,566	—	11,566
特別損失	19,720	25,432	84,596
税引前中間(当期)純利益	221,342	528,615	698,120
法人税、住民税及び事業税	110,617	226,040	352,717
法人税等調整額	△18,900	△12,898	△71,605
中間(当期)純利益	129,625	315,474	417,008

中間個別株主資本等変動計算書

当中間期(2007年4月1日から2007年9月30日まで)

(単位:千円)

科 目	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
2007年3月31日残高	1,070,520	957,810	4,910,476	△959	6,937,846	54,907	54,907	6,992,754
中間会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△112,373		△112,373			△112,373
中間純利益			315,474		315,474			315,474
株主資本以外の項目の中間会計 期間中の変動額(純額)						△15,964	△15,964	△15,964
中間会計期間中の変動額合計	—	—	203,100	—	203,100	△15,964	△15,964	187,135
2007年9月30日残高	1,070,520	957,810	5,113,576	△959	7,140,946	38,942	38,942	7,179,889

会社概要

(2007年9月30日現在)

商号	リバーエレテック株式会社 RIVER ELETEC CORPORATION		
設立	1951年3月9日		
資本金	1,070,520,150円		
従業員数	115名		
役員	代表取締役社長	若尾 富士男	
	専務取締役	岩下 功	
	取締役	浅川 芳孝	
	取締役	三枝 康孝	
	取締役	大塩 久男	
	取締役	三浦 理	
	常勤監査役	江上 年秋	
	社外監査役	中津山 準一	
	社外監査役	小林 栢弘	
事業所			
本社	〒407-8502 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1番11号		
東京営業所	〒160-0023 東京都新宿区西新宿4丁目40番14号		
大阪営業所	〒570-0083 大阪府守口市京阪本通1丁目3番2号 新近藤ビル3F		
名古屋営業所	〒465-0043 愛知県名古屋市中東区宝ヶ丘292番地 藤佳ビル2F		
宇都宮営業所	〒320-0057 栃木県宇都宮市中戸祭1丁目13番27号		

リバーグループ(子会社の状況)

会社名	資本金	議決権比率(%)	事業内容
青森リバーテクノ株式会社	千円 50,000	100	電子部品の製造
台湾利巴股份有限公司	千ニュー台湾ドル 24,000	60	電子部品の販売
River Electronics (Singapore) pte. ltd.	千米ドル 123	100	電子部品の販売
River Electronics (Ipoh) sdn. bhd.	千マレーシアリンギ 10,695	60	電子部品の製造

株式の状況

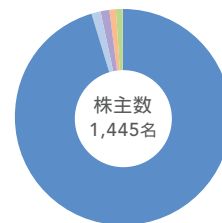
(2007年9月30日現在)

発行可能株式総数	21,600,000株
発行済株式の総数	7,491,594株 (自己株式1,058株を除く)
株主数	1,445名 (前期末比15名減)

大株主

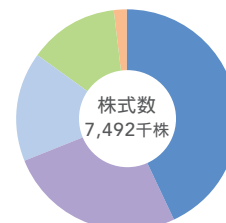
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
若光株式会社	1,048,368	13.99
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	342,500	4.57
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	333,400	4.45
エイチエスピーシー バンク ピーエルシー アカウント アトランティス ジャパン グロース ファンド	332,000	4.43
株式会社山梨中央銀行	268,000	3.58
資産管理サービス信託銀行株式会社 (年金特金口)	212,000	2.83
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	194,400	2.59
リバー従業員持株会	154,043	2.06
株式会社みずほ銀行	150,000	2.00
若尾富士男	146,500	1.96

所有者別株主分布状況



●個人・その他	1,377名	95.29%
●その他法人	20名	1.38%
●金融機関	19名	1.32%
●証券会社	14名	0.97%
●外国株主	14名	0.97%
●自己株式	1名	0.07%

所有株数別株式分布状況



●個人・その他	3,220千株	42.99%
●金融機関	1,944千株	25.95%
●その他法人	1,199千株	16.01%
●外国株主	984千株	13.14%
●証券会社	142千株	1.90%
●自己株式	1千株	0.01%

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 そのほか必要があるときには、あらかじめ公告して臨時に定めることがあります。
単元株式数	100株
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。(当社ホームページに掲載 http://www.river-ele.co.jp/) ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所
証券・銘柄コード	6666

ホームページのご案内

<http://www.river-ele.co.jp/>

当社に関する最新動向や情報をお伝えしております。ぜひご覧ください。



トップページ



会社概要



投資家情報